

そほう

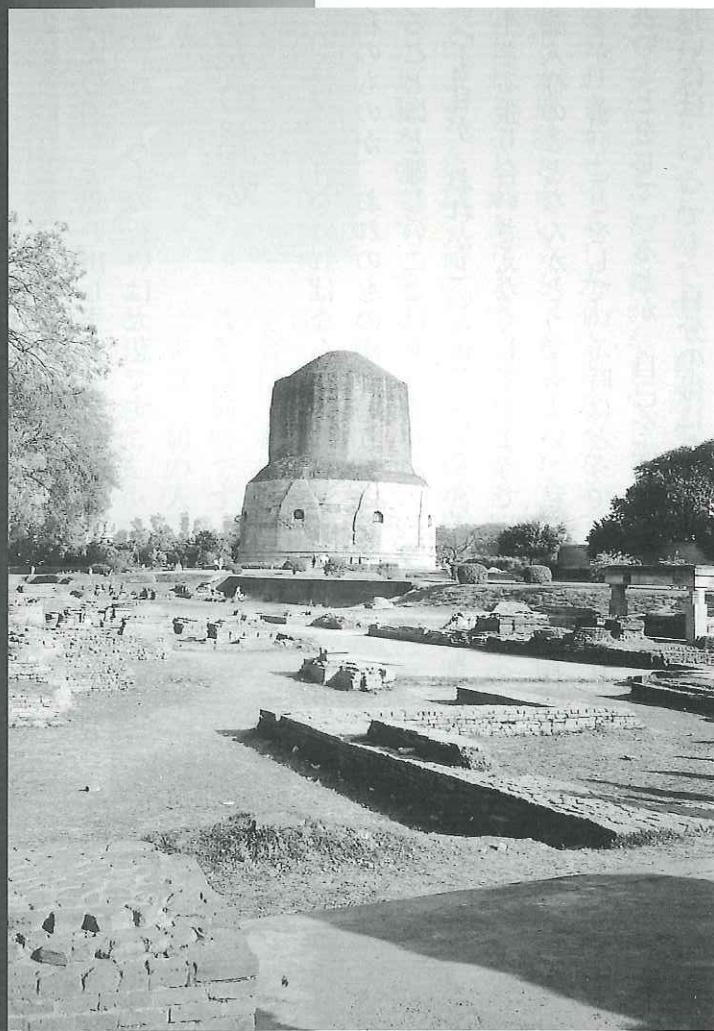
組

報

かながわ

No.11 1998.3.15

身边なお寺の情報誌



ダメーク・ストゥーパ(仏塔) (撮影:宮本義宣)

初転法輪の地・サルナート

サルナート(鹿野苑)は、お釈迦さまが初めて法を説いた場所である。この初めての説法は、5人の弟子たちにされ、これを初転法輪という。

写真は、ダメーク・ストゥーパ(仏塔)と呼ばれる直径約28メートル・高さ43メートルの円筒2段形の塔である。近くには、大僧院跡があり、最盛期には、1500人余りの修行僧がいたと言われている。また、高さ5メートルで折れたアショカ王の石柱が近くにある。この石柱の頭頂部にあった4頭のライオン石像は、現在サルナート考古博物館に展示されている。



今年は、とら年です。とら年というと法隆寺の玉虫の厨子に描かれているサツタ太子の『捨身飼虎の図』を思い出します。自らの命を供して、飢えた虎を救われた太子の行いは大悲です。

「大悲」は深厚広大の慈悲

慈悲の思いには、決然として捨てられなければならないものが

あります。私が、おれが、私ものが、おれものがという思いです。

おのがという思いを捨てるほど難しいことはありません。私達の

毎日毎日の、日暮らしは、いつも私が、おれがという思いに支えられています。私が、おれがと

いう思いがなくなつたら、生きる張り合いさえなくしてしまうでしょう。

悪いことをする時は、勿論人様のことなんかどうでもよい、私だけがよければよいという思いが働いていることに気づきますが、善いことをしている時はどうでしょうか。私達が善いことをしている時には、どこかで人より善いことをしているとか、自己を売り込みたいという気持ちが働いてはいいでしようか。人間の善い行いには、いつでも、自分の得になるように、あるいは損をしないように密やかに細やかに計算する心が働いていると、お糺辯さまは説かされました。

「阿弥陀さまの救いの目当ては悪人であり、罪惡深重の凡夫です」と聞いても、私は密かに隣の人と比べて、あの人よりはこの点でもう少しましか、そう悪人とばかりとは言えないと思い込んでいます。たとえば、寒さに震えていた捨て猫を拾つたのだから、捨てた人よりは善いことをしているのだ、などと人は悪人でも、私は満更悪ではないと思うのです。

ここに私の思い上がりがあります。他の人と比較して安堵し、自己のおろかさに目をつぶつてしまふ

のです。悪人というのは、私が、おれがという思いから一歩も出られない私のことなのです。世間をゆる

がすような凶悪犯罪など、私は、絶対にしないと思つても、縁によつて、人はどのようにも変わると

いうことがわからないこの私が、実は罪惡深重の凡夫なのでしょう。

多田 龍空 (寿福寺住職)



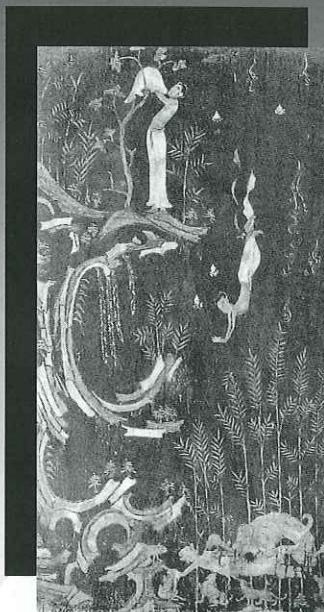
こんな私をじつとみそなわして、「かわいそうに。無明をさまよつておまえを、救わないではおかないと阿弥陀さまはおつしやつてくださるのです。無明というのは明るさのない暗闇のことです。灯をともせば暗闇はなくなります。暗闇を追い払おうとするようなことをしなくてもよいのに、人はたつたひとつ明かりをつけることができないので。無明な存在である私に無条件で、私のところへおいでとおつしやつてくださるのが阿弥陀さまです。私が、おれがという思いを離れられない私の積む善い行いなどは、阿弥陀さまからすれば、救う時の条件にならないとおつしやるのです。

けれども、全てをまかせきるというのは難しいことです。背におぶさる時に、どこにも力を加えず、おぶつてくれる人に全てをまかせるというのは、なかなかできないことです。落ちまいとしてどこかに力が入つてしまい、まかせきることができないのが私です。阿弥陀さまの大悲の中にいるのに、私は「自分が自分が」と力んでしまうのです。自分を繕つたり、かくしたり、誤魔化したりして、凡夫のくせに、凡夫でないような振る舞いをしてしまうのです。凡夫だと分からせて貰えれば、身を投げ出して全てを、おまかせするしか仕方がなくなるでしよう。

極楽とか地獄とかいうと、人は、「どこにそんな世界があるのか。宗教の妄想にすぎない」といわれることがあります。けれども、地獄や極楽の存在は、罪に泣く者にのみ切に知られています。地獄・極楽があるかないかは、偏に罪の意識にかかるのです。罪のこの場所が地獄なのです。死んでから罪の報いで地獄におちるというようなものではなく、今この場所がこのまま地獄なのです。地獄の存在を否定するということ

は、罪への自覚を持たない者の傲慢で愚鈍な見方でしょう。罪に泣く者は、救いを求めましょう。罪の穢土を悲しむことと淨土を慕うことは同時です。ですから地獄があれば、必定極楽もあるのです。

実は一切の人間は、阿弥陀さまの「必ずや救う」というはたらきと、「私にまかせよ」という願いの中にいるので、その外に出ることはできません。ただ人間の無明の故にこの不思議を見ることがで



法話

一九九八年度

宗派の動き



■蓮如上人五〇〇回遠忌法要

三月より十一月まで、十期・百日間にわたり、本山（西本願寺）において、遠忌法要が挙行されます。全国より延べ三十万人以上の参拝者が見込まれています。

■特別展覧会「蓮如と本願寺—その歴史と美術」

三月二十四日～五月五日まで、浄土真宗願寺派・真宗大谷派などが主催し、京都博物館にて開催されます。

両派の国宝・文化財を公開し、宗祖親鸞聖人以来の浄土真宗の歴史・蓮如上人の足跡をたどります。

■第五期連続研修会スタート

連研（連続研修会）は、門信徒の皆さまに、浄土真宗のみ教えを体系的に学んでいただくことを目的に開催されています。四月十八日（土）から第五期がスタートいたします。偶数月の第三土曜日に開催し、全土二回で構成されています。テキストは神奈川組で編纂されたものを使い、講義と班別の話し合い（法座）を中心進められます。

■蓮如上人五〇〇回遠忌法要

神奈川組では、六月十一日（木）から十三日（土）の予定で、本山（西本願寺）で挙行されます。

一九九八年度 神奈川組の動き

行される法要に団体参拝いたします。総勢五〇〇余名が参拝いたします。

■神奈川組仏教婦人会連盟「めぐみ会」

「めぐみ会」は、組内各寺院の婦人会の連盟です。毎年、総会・研修会を開催し、各婦人会の交流と親睦をはかっています。ダーナ（布施）活動として、募金活動をおこない、宗派を通して社会福祉に役立てています。

■第二十六回南ブロックお寺の臨海学校

毎年、神奈川・静岡・山梨三県から小学校三年から中学三年の子供たちが集まり開催されています。今年は七月二十八日（火）～三十日（木）、神奈川県鎌倉にて開校されます。

慶弔弔覽

◆慶賀
一九九七年十月二十五日
常念寺 住職継職法要



※各活動に参加ご希望の方は、所属寺院までお問い合わせください。

■神奈川組仏教壮年会
結成以来七年目を迎えます。現在男女合わせて約百十数名の会員が活発に活動中です。主な活動は、隔月で研修会を開催しています。

昨年は、十月十八日（土）に初めての企画で「組内寺院巡拝行脚」が組仏壮年会で行われました。五十六名が参加し、組内の四ヶ寺を行脚しました。

組内寺院 巡拝行脚

当日は、朝から快晴の絶好のハイキング日和で、午前十時には、センター南駅にほとんど全員が勢揃いして、寿福寺へ向かって出発。この地区は横浜市が企画した港北ニュータウンの中心地区なので、すべて専用遊歩道を利用できます。途中で、長い階段があり、早速難行な行脚となりました。

寿福寺では、当寺の仏社会員の方々の歓迎を受け、ご住職からは、寺歴の説明や、平成十年に完成予定の会館のことなど、将来のお話まで伺いました。

さらに昔懐かしい道を十分程で最乗寺へ。境内に立つ横浜市名木百選の大イチョウが目印です。本堂でお勤めの後、ご住職から人生訓を加えた寺歴についてのお話があり、感激しました。門徒会館をお借りして、持参した弁当で昼食をとり、各自のおかずを交換したりデザートを配ったり、楽しい交歓会となりました。

午後からは、まず横浜市歴史博物館へ向かって出発。この区間は一般道、工業団地、農業地区と道路が複雑に絡み、一時間程かかり少々疲れたところで横浜歴史博物館に到着。ここで、しばし横浜市の歴史を知る時間を過ごして東善寺へ。

道は、区画整理で完成された歩道ですが、少々疲れた足に頑張ってもらい、本堂新築成った東善寺に着きました。ここご本尊は、今回の土地開発に関連して文化財の調査が行われ、その結果大変貴重な仏像であることが判り大修理が施されたと、ご住職から説明がありました。

そして最後の巡拝寺院である長徳寺には、何とか踏ん張ってたどり着きました。長徳寺は、港北ニュータウン計画により、新しい伽藍、新しい墓地が整備されています。ご住職がインド音楽を演奏して下さり、新しい試みとしての今回の行脚を締めくくるには、うってつけでした。

この日の行脚では、途中歩き疲れた参加者もありましたが、寺院関係の方々が、ワゴン車でサポートして下さり、助かりました。

また、行脚終了後には、この地区的町内会館で懇親会が持たれ、一日の反省を含めて盛り上がり、二時間程でそれぞれの家路へと向かいました。

（報告／長延寺門徒・雲居時行）

蓮如上人 ゆかりの地

【蓮如上人の行実】

蓮如上人は、四十二才で本願寺第八代門主を継承されました。教団興隆の功績は多大なもので、中興の祖といわれています。その行実は、まず「御文宣」をもつて伝道教化されたことです。その「御文宣」とは、宗祖親鸞聖人の教えを平易な文章で自由自在に表現されたもので、広く門徒に披露され、信仰を語り合う規範となりました。一通の「御文宣」がその伝道に果たした意義は重要なものがありました。

また、蓮如上人は、宗教儀礼の簡易化をはかるため、朝夕のおつとめを誰でも勤められるよう『正信偈和讃』を日常勤行として定められました。『正信偈和讃』は、親鸞聖人の『正信偈』と『三帖和讃』を合体させたものでした。



(北陸編) 越中五箇山編

近江を拠点に布教に専念されていた蓮如上人は、1471年4月(57歳)、北陸に向けて旅立たれた。その年に吉崎御坊が建立されるが、それまでの間、越前・加賀・越中と精力的に布教をされた。



蓮如清水

(富山県東砺波郡上平村西赤尾)
蓮如上人が杖で地面を叩くと水が湧き出たという伝説がある。現在もこんこんと清水が湧き出ており、「この水を大切にし、上人の遺徳を偲んでいる。」

行徳寺

富山県東砺波郡上平村西赤尾
行徳寺は、蓮如上人の弟子の道宗が開基である。赤尾の道宗と呼ばれ、「蓮如上人御一代記聞書」にも登場する。蓮如上人はたびたび、この地に訪れ、道宗の案内で法座を開き、布教活動をした。本堂横の遺徳館には、上人直筆の名号や御文宣、道宗絵伝などが所蔵されている。また、上人や道宗を慕つて訪れた、棟方志功の版画なども展示されている。

吉崎編



◆蓮如上人略年譜◆

十四年(應永二年)	誕生。
十四年(永享三年)	七才 青蓮院で得度。
十五年(長禄四年)	四才 第七代存如上人止寂、本願寺第八代繼職。
十六年(寶正五年)	四才 正信偈大意著す。
十七年(寶正六年)	四才 初めて「御文宣」を書く。
十八年(寶正七年)	四才 比叡山衆徒、大谷本願寺を破却。
十九年(文明三年)	五才 越前吉崎に坊言を建立。
二十年(文明四年)	五才 正信偈和讃開版。
二十一年(文明五年)	六才 山科に御影堂造営。
二十二年(文明六年)	七才 寺務を実如上人に譲り、南殿に隠居。
二十三年(文明七年)	八才 大坂から山科へ。蓮如上人止寂。
二十四年(明応八年)	八五才 正信偈和讃開版。
二十五年(延徳九年)	八五才 山科に御影堂造営。
二十六年(延徳十年)	八五才 大坂から山科へ。蓮如上人止寂。
二十七年(延徳十一年)	八五才 大坂から山科へ。蓮如上人止寂。
二十八年(延徳十二年)	八五才 大坂から山科へ。蓮如上人止寂。
二十九年(延徳十三年)	八五才 大坂から山科へ。蓮如上人止寂。
三十一年(延徳十五年)	八五才 大坂から山科へ。蓮如上人止寂。
三十二年(延徳十六年)	八五才 大坂から山科へ。蓮如上人止寂。
三十三年(延徳十七年)	八五才 大坂から山科へ。蓮如上人止寂。
三十四年(延徳十八年)	八五才 大坂から山科へ。蓮如上人止寂。
三十五年(延徳十九年)	八五才 大坂から山科へ。蓮如上人止寂。
三十六年(延徳二十年)	八五才 大坂から山科へ。蓮如上人止寂。
三十七年(延徳二十一年)	八五才 大坂から山科へ。蓮如上人止寂。
三十八年(延徳二十二年)	八五才 大坂から山科へ。蓮如上人止寂。
三十九年(延徳二十三年)	八五才 大坂から山科へ。蓮如上人止寂。
四十一年(延徳二十四年)	八五才 大坂から山科へ。蓮如上人止寂。
四十二年(延徳二十五年)	八五才 大坂から山科へ。蓮如上人止寂。

◆蓮如上人お腰かけの石

御坊跡には、上人がよく座つて景色を眺めたという大きな石が本堂跡の石碑の横に残っている。

◆お花松

御坊跡の東側には、上人お手植えの松がある。明治初年に枯れたので、現在のは二代目である。

花松のみあとをとえば十かえりの春にもあえる心地こそそれ

廣如上人(二十五代門主)

嫁おどしの肉付きの面

御坊跡を降りる途中にある願慶寺には、「肉付きの面」がある。

「姑と二人暮らしの十楽村のきよは、法話のある晩は吉崎へ通つた。それを快く思わなかつた婆さんは、鬼面をかぶつて嫁を待ち伏せし脅した。きよを脅かし、家に戻つた婆さんが面を取ろうとした。しかし、顔に張り付いて取れなくなつてしまつた。後から帰つてきたきよが、泣き叫んでいる婆さんを見つけて肝をつぶした。さつきの鬼は婆さんだった。心から詫びる婆さんの面をきよも取つてあげようとしたが取れない。上人から教わった

「南無阿弥陀仏」をきよは婆さんになるとるように勧めた。婆さんがとなえると面がとれた」

淨土真宗の信仰を広める説話をとして伝えられている。

◆血染めの聖教

一四七四年三月の火災の際、親鸞聖人直筆の「教行信証・証の巻」を持ち出しこれを忘れた。そのことを知った本光坊了顕は、火の中へ飛び込んだ。持ち出せない

越中五箇山は、赤尾谷、上梨谷、下梨谷、小谷、利賀谷の五つの谷間に集落が点在しその総称であると伝えられる。こここの集落にある合掌造りの民家は世界遺産に登録された。

吉崎御坊は一万坪の広大な山上に建立され、上人退出のあとは、本覚坊蓮光が留守をまもつた。一五〇六年朝倉貞影によつて完全に破壊された。

吉崎御坊は一万坪の広大な山上に建立され、上人退出のあとは、本覚坊蓮光が留守をまもつた。一五〇六年朝倉貞影によつて完全に破壊された。

『少年法』の改正論議について

『少年法』の趣旨を理解した上での 改正論議を

神戸の少年の連續殺傷事件以来（いやそれ以前からかもしれません）、少年法の改正が叫ばれています。少年の起こす事件が凶悪化し、少年法が犯罪少年に不当に甘過ぎ、現実にそぐわない法律になつてゐるといつ主張です。

現代社会においては、精神的にも社会的にも成熟していない子どもたちを、大人が保護し援

助していくことは当然の義務と考えます。それでは、罪を犯した少年の場合はどうしたらよいのでしょうか。少年法は、社会に適合できない犯罪少年を更生させるために国が援助をしていくことを目的にしています。少年は未熟であるがゆえに環境に左右されやすい。それだけに教育や環境を整えれば、劇的に更生することも可能な可塑性を

神戸の少年事件は大変ショックでした。その残忍さに対しても、重い懲罰を科すことができない少年法に論議が集まりました。マスコミがこぞつてこの事

件を取り上げ人々の報復感情を煽りました。そして、十四歳の少年でさえこんな事件を起こすのだから、少年であっても犯罪に値する罰を与えるべきとの声が高まりました。

しかし、十四歳の少年だからこそ保護し救つていかなければならぬのです。少年法は、浄土真宗の「悪人正機」のみ教え

に、極めて近い思想を持つた法律であると考えられます。ただし、少年法も人間のつくった法律であり、人間が運用するのですから、時に応じて改善されていくべきだと思います。実際に少年法が、犯罪の事実認定や被害者救済などの面で欠陥を持っていることも事実なのです。ところが、その欠陥は少年の更生

にとつてより良い条件を整えるために生じているのです。

ですから、少年犯罪を報復感情のみで眺めるのではなく、少年の更生を主眼とする少年法の趣旨を理解した上で、改正論議をしていかなければならぬことがあります。

◎少年法を学ぶためのおすすめの本
『少年犯罪と少年法』

後藤弘子編（明石書店）

法 燈 明



◆真宗門徒をさえた非常食◆

本願寺にまつわるお菓子に「松風」がある。

元龜元年（一五七〇）の秋、織田信長は現在の大坂城の地にあった石山本願寺を配下に治めよう企てた。だが、ときの門主・第十一代顯如上人はこれを拒み、十一年間におよぶ石山合戦へと発展したのであった。真宗門徒たちは、長期にわたる信長の攻勢から法城・石山本願寺を守り続けた。

そのとき、本願寺にとつて貴重な食糧となつたのがこのお菓子である。のちに上人から「松風」の名がおへられると伝えられている。

この「松風」、和菓子ではあるがパンのようでもあり、何とも言葉では表現しきれない。本山参拝のときには一度

ご試食を。西本願寺の門前にある「亀屋陸奥」（かめや むつ）という店で製造販売している。

ちょっと息むかし話

がご 籠と水

あるお同行が蓮如さまに心の内をありのまま
うちあけた時のお話です。

「蓮如さま、わたしの悩みを聞いてください」

「はい、なんですか」

「私の心は、まるで籠の中に水を注いでいるよ

うに、仏法のお話を聞いているときは有り難く、

尊いことであるとよろこべるのですが、その場を離れると
その気持ちもなくなってしまいます」

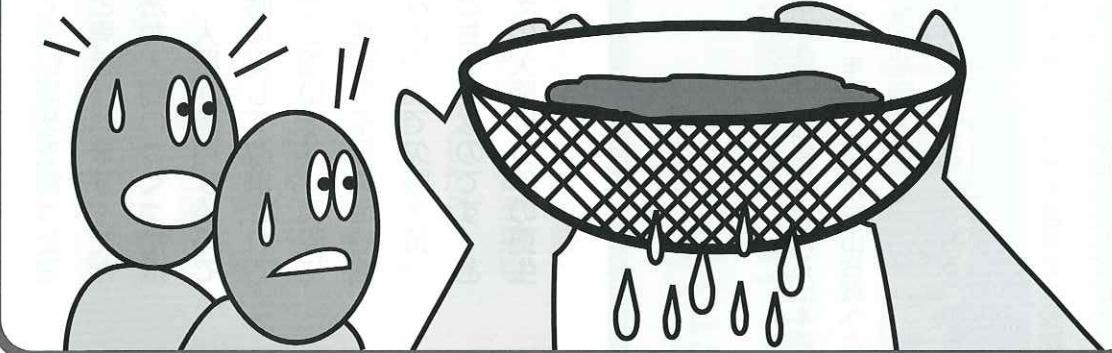
「籠に水を入れても目から漏れてしまうのなら、その籠を水に浸しておきな
さい籠を水に入れたのでは漏れるから、籠を水に浸しておきなさい」

「はあ」

「籠を水に浸しておくように、わが身をみ教えの中に浸しておきなさい。そ
うすれば、み教えがわが身にわが心に満ち満ちているでしょう」

「そうありましたか。ありがとうございました」

蓮如上人は、仏法を生涯聞き続けることにより、たよりないわが身でもまち
がいなく、み教えのなかに生きていくのだということをさとされたのでした。



阪神淡路大震災から丸三年が経ちました。
この時、ボランティア活動が大々的に報道され、世間で感心されたものでした。
この頃では、「仮設住宅」に住む震災の被災者たちを見舞うボランティアの人たちが不足していると、報道されています。
ボランティア活動を長く続けるといふことは至難の業です。仕事あり、家族あり、距離ありの、あり、近くして暇なし、滞在費なし、体力なしの、なし、近くして、到底続けるにも限界があり、己のいたりなどいうことだと知らされます。
また、被災者に「…してあげた」という心でいたことに気づかされたとき、仏教は、私たちの「執着と傲慢さ」の深さを教えてくれます。そして、ボランティアはそうではなく、どこまでも対等な、共に歩むということがだと知らされます。
ボランティアは、高見からする慈善事業でもなく、自らの善行を満足させ、利益のためにする活動ではありません。自立復興を願い、共に歩む活動は、私たちにできる「理想のボランティア」と言えるかもしれません。

仏事のこころえ

お経のおつとめは何のため?

お経は何のために読むのでしょうか?

通俗的には年回法要などで、読經するのは、その功德を亡き人に回向する(さしむける)ためだと言われています。しかし、浄土真宗では読經は、亡き人に回向したり、祈祷したり、精神修養のためにとは考えていな

いのです。

お経とは、お釈迦さまの説法で、お釈迦さまの説かれたことばを、文字に記録して伝えられたものです。ですから、お経を読むということとは、お釈迦さまのお説法(浄土三部經)や、宗祖のお念仏のお味わい(正信偈・和讃)を繰り返し拝讀することです。よって、仏さまのお徳を讚え、み教えを自らが聞き、よろこびせていただく報恩感謝の意味なのです。

ですから、お経の内容を理解しなければなりません。しかし、お経は漢文で分かりにくいので、法事の時の読經のあとに法話がされたり、お寺では法座がひらかれているのです。

お経というと「般若心経」が一般に知られていますが、浄土真宗ではこのお経は用いません。たくさんあるお経の中でも、まずもって南無阿弥陀仏のお念佛を説き示した浄土三部經(「仏説無量寿經」「仏説觀無量寿經」「仏説阿彌陀經」)を、生きるよりどころとしているからです。

また、田じろからお経に親しみ、僧侶がいなくても、お勤めができるようになって下さればと思います。お寺での行事や研修会等に積極的に参加し、お経を読む機会を多くもち、自分一人でも自信をもって読めるようになりたいものです。

なお、お経本はお釈迦さまの説かれたことばの書いてある大切なものですから、畳や床に直接置くことは避けましょう。

本年度 蓮如上人五百回遠忌法要
神奈川組団参旅行、誠心誠意お手伝いさせて頂きます。

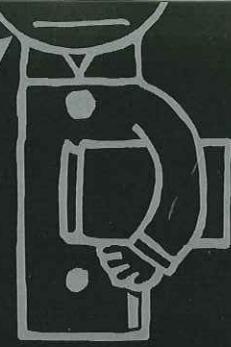
近畿日本ツーリスト 横浜団体旅行支店

〒231-0033 横浜市中区長者町5-85 明治生命ラジオ日本ビル10F
TEL.045-253-2055 FAX.045-253-2060

担当/大迫・濱田

理想のボランティア

私の出逢つた
この一冊



『覺醒のネットワーク』

上田紀行 著
(講談社・プラスアルファ文庫)

M.Y.

医療と宗教の提携を課題に

上田紀行氏は、現在、東京工業大学助教授で文化人類学者。『癒し』をキーワードに現代の閉塞状況を読み解こうとする。この言葉には、体の病を治すだけでなく、心の苦しみをも解消し、人間をまるごと健やかな状態にするという響きがある。本書は、「現代という時代は、いのちのつながりが失われていて、そして、それが私たちがわくわくすることを阻害しているのではないか」というちょっとした気づきから出発している。

「本当の自分を出すと排除される」とい

うシステム社会が、集団の中にいても孤独を感じさせる。それが“癒し”的背景になると分析する。よって、「ただ私があるのだ」という自分なりの個を確立する場を認めることが“癒し”につながるはずであるという。

また、「差別と暴力の渦巻くこの世界をどうやって変えていくのか」「私たちはどうやって生き生きとしていけるのか」という著者の問い合わせ、別々のようでは実は一つのものであったと気づく。みんな“生き生き”してみたいのだが、“生き生き”を阻害する原因がある。それをとことん見極めて越えていこうと試みている。

お釈迦さまが、「人生は苦である」と悟り、苦の原因をとことん追求し明らかにする。そのことで苦を乗り越え、迷いの境涯からの解放をもたらす方法を実践されたのも似ていると著者は言う。

心の時代と言われ、『癒し』の求められる現代に、医療と宗教はどう答えていくのか、考えさせられる本である。どうぞ、じっくりと読んでみてください。

旅に出ると人の心は洗われる……。

旅のことなら、全ておまかせ下さい。

東武トラベル(株) 横浜支店

〒220-0004 横浜市西区北幸1-11-7 日本生命横浜西口ビル4F
TEL045-311-8251 FAX045-311-8210

お寺を訪ねて(10)

長念寺は川崎の一番北に位置する多摩区にあります。周辺には農地が点在しており多摩川梨の産地として知られています。

本堂は1823年(文政6)に着工、24年の歳月を費やして1848年(弘化5)2月に落慶法要が厳修されています。当初、箱棟方形造り茅葺屋根で棟高が5丈3尺ありましたが、1959年(昭和34)に、現在の入母屋造り、銅板瓦棒葺屋根に改築しました。梁や組物等の彫刻、彩色など細部にわたる意匠は、江戸時代後期の特徴をあらわすものであります。また庫裡は本堂と前後して建てられ、山門は1854年(嘉永7)に建立されました。これら3棟は1990年に川崎市重要歴史記念物に指定されています。

鐘楼は、1928年(昭和3)に再建されたもので、元禄年間に鑄立された梵鐘は、1942年(昭和17)に太平洋戦争のために供出され、現在の梵鐘は1948年(昭和23)に再鑄されたものです。

また長念寺には、川崎市指定重要歴史記念物の『絹本着色 秀月禪尼画像』、『木造阿弥陀如来立像』や神奈川県指定重要文化財『紙本着色 鳥合わせ図屏風(狩野派初期の作品)』なども所蔵されています。

現在の長念寺は、隣接地に「稻田保育園」を開設しており、報恩講法要の際には園児による奉納舞踊や讃仏歌の齊唱も行われています。また住職の小林泰善師はテレホン法話も行っていますのでご利用ください。(覧下参照)

長念寺は、本堂を中心に江戸時代の景観を良くとどめており、地域文化の上でも貴重なお寺です。是非一度お参りになってみてはいかがですか。



— 神奈川組江戸時代の 景観をとどめる —

ちょうねんじ
長念寺

(川崎市多摩区登戸1416)



ビハーラ電話相談

—老いの悩み、病の苦しみに—

相談日
毎週月・金／午後2時～5時

浄土真宗東京ビハーラ(築地本願寺内)

TEL.03(5565)3418

テレホン法話

ちょっと一息。電話で仏さまのみ教えを!

- 築地本願寺こころの電話
TEL.03(3541)0282
TEL.045(662)5629
- 長念寺テレホン法話
TEL.044(911)8282

インターネットによる法話や仏教情報のページ
ポストエイオス研究会ホームページ
<http://www2s.biglobe.ne.jp/~posteos/>

お手々のしわとしわをあわせて…しあわせ

日本の美・日本の心をお届けします。

お仏壇の はせがわ



業界初の上場企業
関東地区84店舗・全国で127店舗

~お仏壇、お仏具等~
**特別割引
大セ奉仕中!!**

*セール商品は除きます。

墓石・霊園も
好評お取り扱いしております。

しあわせ少女たばさちゃん

横浜・川崎地区的店舗ご案内

金沢文庫店	横浜市金沢区谷津町352-7 オオサワヒルズ1F	0120-876-768
上大岡店	横浜市港南区日野5-1-25	0120-767-628
戸塚店	横浜市戸塚区柏尾町440-1	0120-767-627
今宿店	横浜市旭区今宿東町1621	0120-767-658
新杉田店	横浜市磯子区杉田1-2-3	0120-484-883
長津田店	横浜市緑区いぶき野3-1	0120-744-194
鶴見駒岡店	横浜市鶴見区駒岡町4-23-4	0120-176-761
日吉店	横浜市港北区日吉3-4-8 リバーサイド日吉	0120-639-010
鷺沼店	川崎市宮前区東有馬1-1-19	0120-876-768
川崎店	川崎市川崎区東田町2-1	0120-767-577

営業時間／午前10時～午後7時 日曜・祝日も営業いたしております。



お仏壇の はせがわ

昭和59年 京都西本願寺阿弥陀堂
昭和62年 京都清水寺開山堂御厨子
三重塔堂内修復事業
昭和63年 福岡証券取引所
業界初の株式上場
平成6年 大阪証券取引所第2部
株式上場

製造部
(株)はせがわ美術工芸
(国宝美術品、寺院神社)
(株)長谷川仏壇製作所(純金箔仏壇)
長谷川江川木工(株)(店本仏壇)
(株)長谷川唐木仏壇製作所(店本仏壇)

わたしたちのお寺です



浄土真宗本願寺派

神奈川組

えんこうじ 円光寺	〒210-0814 川崎市川崎区台町 4-21 石川 康承 044-266-2677	ちょうとくじ 長徳寺	〒224-0015 横浜市都筑区牛久保西3-9-1 平塚 大乗 045-911-7351
ほうえんじ 宝円寺	〒210-0838 川崎市川崎区境町 5-10 飯田 琢亮 044-222-3941	じおんじ 慈恩寺	〒224-0055 横浜市都筑区加賀原2-18-1 小泉 敬信 045-934-8648
こうとくじ 光徳寺	〒210-0848 川崎市川崎区京町 1-14-3 林 信順 044-333-3997	さいしょじ 西勝寺	〒225-0003 横浜市青葉区新石川1-10-8 藤下 悅乘 045-911-0156
しょうらくじ 正樂寺	〒210-0916 川崎市幸区南幸町 2-49 佐々木俊博 044-522-1961	ちょうえんじ 長延寺	〒226-0015 横浜市緑区三保町 2440 雲居 隆栄 045-932-3348
こうがんじ 高元寺	〒211-0051 川崎市中原区宮内 4-3-12 宮本 義孝 044-777-6544	さいがんじ 最願寺	〒230-0001 横浜市鶴見区矢向4-19-18 藤江 昭道 045-571-4694
ちょうねんじ 長念寺	〒214-0014 川崎市多摩区登戸 1416 小林 泰善 044-911-2549	ほうこうじ 宝光寺	〒231-0062 横浜市中区桜木町 3-5 藤田 恭順 045-201-3509
じょうねんじ 常念寺	〒215-0033 川崎市麻生区栗木 203 古市 道仁 044-988-0205	せんしきじ 宣正寺	〒232-0063 横浜市南区中里 3-20-18 早島 大英 045-731-2679
ぜんりゅうじ 善龍寺	〒221-0811 横浜市神奈川区斎藤分町33 斎藤 幸紹 045-491-9431	ぜんねんじ 善然寺	〒232-0061 横浜市南区大岡 2-26-17 (代務) 藤園 賢雄 045-741-2351
ぜんきょうじ 善教寺	〒223-0057 横浜市港北区新羽町 2396 平等 勝尊 045-541-7684	せいらいじ 清来寺	〒241-0034 横浜市旭区今宿南町 1895 曾我 求真 045-951-0012
きょうがくじ 教覚寺	〒223-0057 横浜市港北区新羽町 2395 平等 真証 045-531-5050	本願寺築地別院都市開教布教所	
こうりんじ 光輪寺	〒223-0064 横浜市港北区下田町 3-2-9 村石 恵照 045-561-8671	横浜布教所	〒240-0065 横浜市保土ヶ谷区和田2-12-19 開田 蓮成 045-341-7455
とうぜんじ 東善寺	〒224-0001 横浜市都筑区中川 7-18-29 長谷尾芳雄 045-911-3509	三ツ境布教所	〒241-0816 横浜市旭区笛野台 3-9-9 原田 晃英 045-364-2266
じゅふくじ 寿福寺	〒224-0033 横浜市都筑区茅ヶ崎東1-7-1 多田 龍空 045-942-3721	磯子布教所	〒231-0835 横浜市中区根岸加曾台25-47 中戸 達雄 045-623-4480
さいじょうじ 最乗寺	〒224-0034 横浜市都筑区勝田町 1277 日野 教昭 045-941-3541	川崎布教所	〒213-0033 川崎市高津区下作延845-16 加藤 孝充 044-855-2780

かながわそ 「神奈川組」とは…

私たちの教団（浄土真宗本願寺派）は、全国に一万余りの寺院を擁し教団独自の地区割をしています。その一番小さな単位を「組」といいます。神奈川組は、川崎市と横浜市中部と北部の寺院によって構成されています。

浄土真宗本願寺派東京教区神奈川組

組長／林 信順

教区会議員／曾我 求真 副組長／斎藤 幸紹 相談員／早島 大英
金子 貞夫（門徒） 副組長／小林 泰善 相談員補佐／宮本 義宣

一茶の俳句から

「一茶は朝晩お勤めをしておりますから、蓮如上人の『お文』(御文)の中に出て来る言葉を、そのまま句の中にも採用しているのがござります。例えば、

なむあみた仙の方より鳴蚊哉

「仙の方より」といふのは、蓮如上人のお文で申しますと、五帖目第十通「聖人一流草」といつのがあります。その中に「不可思議の願力として仙のかたより往生は治定せしめたまひに々」といり、その「仙のかたより」を使いましてこの句を説んでおりますから、「仙のかた」といふのは阿弥陀さまのほうからという意味です。

ところが、ある註釈によりますと、仏壇の奥の方からといふのだ説明しているのがあります。これは違うと思います。(中略)

鳴いてきたあの蚊といふのは、実は自分を刺しに来た蚊ではない。阿弥陀さまが私に「一茶よ、凡夫の一生だけれども、命終われば極楽浄土に生まれて仙になることができるんだよ、急仮申せ」と囁いて下さっている。その阿弥陀如来の喚び声として、蚊の鳴き声を一茶は聞いているんです。だから「なむあみだ」といふのは、私が説いていたがら阿弥陀仏の喚び声となつて聞かれている、と解釈すべきでしょ。

早島鏡正著『念佛一茶』
四季社刊より

組報かながわ 編集後記

栃木の事件以来、「キレる」という言葉が注目を浴びている。中高生のあいだではカッコいいイメージがあるようである。「ムカつく」もよく聞く。相手を全否定する嫌な言葉である。

ムカついてキレる。それがカッコいい。一種の血口顯示欲のあるやうだ。しかし、キレるとは自己抑制が効かなくなるということ。周りは迷惑していることに気づけない。デパートで泣きわめいている子と同じじゃないか。

「おり、ゆるせねえ」といつてスーパーイヤになつて地球を救えればいいのだが。



浄土真宗本願寺派 (西本願寺)

最乘寺

横浜市都筑区勝田町1277

電話 045-941-3541

組報かながわ No.11

■発行日 1998年3月15日
(毎年1回3月発行)

■編集発行 浄土真宗本願寺派
東京教区神奈川組
基幹運動推進委員会

〒210-0848 川崎市川崎区京町1-14-3 光徳寺内